

**製品名: IK1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12461**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	48kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KCNN4
別名	KCNN4; IK1; IKCA1; KCA4; SK4; Intermediate conductance calcium-activated potassium channel protein 4; SK4; SKCa 4; SKCa4; IKCa1; IK1; KCa3.1; KCa4; Putative Gardos channel
遺伝子 ID	3783.0
SwissProt ID	O15554
免疫原	抗血清はヒト KCNN4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

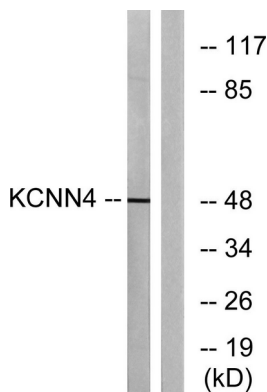
**背景**

カリウムカルシウム活性化チャネルサブファミリー N メンバー 4 (KCNN4) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパ

ク質は、細胞内カルシウムによって活性化される、潜在的にヘテロ四量体の電位非依存性カリウムチャンネルの一部です。活性化の後に膜過分極が起こり、カルシウム流入が促進されます。コードされているタンパク質は、Tリンパ球における主要なカルシウム活性化カリウムチャンネルの一部である可能性があります。この遺伝子は他の KCNN ファミリーカリウムチャンネル遺伝子と類似していますが、新しいサブファミリーの一部と見なされる可能性があるほど十分に異なります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能：細胞内カルシウムによって活性化される電位非依存性カリウムチャンネルを形成します。活性化の後に膜過分極が起こり、カルシウム流入が促進されます。このチャンネルはクロトリマゾールおよびカリブドトキシンによって阻害されるが、アパミンには感受性がない。誘導：T 細胞において、ホルポールミリスチン酸アセテート (PMA) およびフィットヘマグルチニン (PHA) によってアップレギュレーションされる。類似性：カリウムチャンネル KCNN ファミリーに属する。サブユニット：カリウムチャンネルタンパク質のヘテロ四量体 (おそらく)。MTMR6 と相互作用する。組織特異性：非興奮性組織で広く発現する。

## 研究分野

## 画像データ



KCNN4 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。